

前奏曲。座長、男優1、男優2、女優1、女優2、登場。

**座長** シラノ・ド・ベルジュラックという男は、実在した。

1619年生まれ、1655年没。詩人にして剣の達人、数々の決闘で花の都パリにその名をとどろかせ、36年の短い生涯のうちに、戯曲を2本、小説2本、その他散文と詩をいくばくか著している。

**全員** (ほおー、と感心する)

**座長** だがこのシラノという男、きみたちも知ってのとおり、本人が残した作品よりは、彼を主人公にした戯曲のほうではるかに有名だ。題名はずばり、『シラノ・ド・ベルジュラック』。時は世紀末、作者の名はエドモン・ロスタン、ロマンティックな恋愛劇で、1897年の初演当時から大当たりをとり、以来オペラ化されること2回、ミュージカル化が3回、映画化はなんと7回。21世紀の今もお世界じゅうで愛されている傑作だ。

**女優1** (手を挙げる) あの一、座長。

**座長** 質問かな？

**女優1** 外国のお話なんですか？

**座長** (大げさにあきれて見せ) フランスだ、フランス。今回、きみたちには全員、フランス人になってもらう。

**全員** (えー？ と不安でざわめく)

**座長** まあ観客の皆さんに無理やりきみたちをフランス人だと思っていただく、と言ったほうが正確だな。(女優が手を挙げるので) 何？

**女優1** じゃ、(自分の髪を指し) 髪、染めたほうがいいですか？

**座長** いいねえ。どうせなら金髪にきなさい。

**女優1** えー、金髪？

**座長** イヤなの？

**女優1** 染めると、傷むから……

**座長** じゃ、やめなさい。

**女優1** えー、このまま？

**座長** どうしたいの。

**女優1** えっと、もう少し明るめ、とか、もう少しくるくる、とか……

**座長** ああ(すでにあまり聞いてないが、優しく)、好きにきなさい。

さて、今回の公演だが、この『シラノ・ド・ベルジュラック』という戯曲をそのまま上演したのでは芸がない。他の劇団がいくらでもやっているからね、もっとたっぷり予算を使ってね。そこでわれわれは新機軸で勝負に出る。ロスタン作の『シラノ・ド・ベルジュラック』に、実在したシラノ自身が書いた小説を織り交ぜていく。いわゆる劇中劇、入れ子構造、メタシアターという手法だな。

**全員** (ほおー？ とやや不安ながら感心する)

**座長** このシラノ自身の小説というのが、諸君、じつに傑作なのだよ。一作目が『月への旅行記』、続編が『太陽への旅行記』というのだが、何しろ17世紀前半、まだ天動説が信じられていた時代にだ、ガリレイが宗教裁判にかけられて「それでも地球は回っ

#01 セヴラック「教会の  
スイス人に扮装したト  
ト」(ピアノソロ)

てる」とこっそりつぶやいたとかいう時代にだよ、矢を束ねて火をつけてそれをロケットにして月へすっ飛んでいくっていう、バカバカしくも大胆不敵、こんな話、なかなか思いつかないだろう、普通？ このSFの先駆けともいえる空想旅行記を、ロスタンの作ったラブストーリーに組み入れていくわけだ。どうだ、面白そうだろう。成功まちがいなしだな、これは。さて、配役を発表する。(男優1に) シラノはきみだ。

**男優1** 了解。

**座長** (女優1に) そして、きみがロクサーヌ。

**女優1** ロクサーヌって誰ですか？

**座長** (大げさにあきれて見せ) ヒロインに決まってるじゃないか。シラノの従妹で幼なじみ。シラノがひそかに恋い焦がれる相手だよ。

**女優1** 片想いなんですか？

**座長** そうとも言えるし、そうじゃないとも言える。

**女優1** どっち。

**座長** まあ台本を読みなさい、いい役だから。才色兼備、頭もよくて顔もいい。しかも性格もかわいい。一途でひたむき。

**女優1** (嬉しい) ロクサーヌって人も実在したんですか？

**座長** 実在したけど、しなかったんだな。

**女優1** はい？

**座長** シラノに従妹はいたけど、美女でも才女でもなかったし、ロクサーヌという名前でもなかった。

**女優1** ふーん。(ちょっと混乱)

**座長** よけいなことは考えなくていいんだ。ようするにね、きみの役は、パリ〜の社交界の理想の女性像、いわば、アイドルなんだよ。

**女優1** アイドル。(なんかわかった)

この間、男優2と女優2、しんぼう強く聞いている。

**座長** さて、このロクサーヌと、シラノの友人であるところのクリスチャンという若者が、おたがい一目惚れ。シラノはおのれの想いを押しかくして、二人の恋を仲立ちする。泣かせるだろう。

**男優2** 『無法松の一生』にちょっと似てますね。

**座長** そう！ そうなんだよ。グローバルにしてワールドワイド、全世界が泣かずにいられない、それがシラノだ。

**男優2** クリスチャンっていうのはどんな役なんですか？

**座長** 口下手で、顔がいいだけがとりえの優男 [やさおとこ] さ。

**男優2** それは、誰が？

**座長** わたしがやる。

**全員** ……

**座長** ああ、もう一つ重要な役があったな。劇全体の作者となるロスタンだ。(男優1と女優1に) まずきみたちがロスタンの作ったラブストーリーを演じるだろう。いいところまで来たら、(男優1に) きみが突然、作者に向かってこう言い出すんだ、「惚れ

た腫れたは、もう飽きた」。そこからシラノの月旅行が始まる。

**男優2** その、ロスタンの役は誰が？

**座長** もちろんわたしがやる。

**全員** ……

**座長** この芝居、三人いればできる。役者をたくさん使えばいいというものではないんだ。使うべきは（自分の頭を指す）ここ、アタマだよ。シンプルかつコンパクトに、それが当劇団のモットーだ。何か質問は？

男優2と女優2、手を挙げる。

**座長** ああ……、そうか。じゃ、（男優2に）松。（女優2に）竹。

**男優2&女優2** えー？！

**男優2** フランスの話でしょ？

**座長** じゃ、（男優2に）エッフェル塔。（女優2に）凱旋門。

**男優2&女優2** えー？！

**男優2** 人間の役、ないんですか？

**座長** ぜいたく言うな、このご時世に。（男優1と女優1に）稽古始めるぞ。

**男優2** ああっ、人間じゃなくてもいいです。

**座長** （ふり向いて）そう？

**男優2** 台詞があれば。

**座長** 台詞ねえ。

**男優2** 出番があれば！

**座長** 前向きに検討しよう。（と言いつつ男優2と女優2を舞台の端に押しやっていく）  
寄ってて、寄ってて。何か思いついたら、呼ぶから。

**女優2** 座長。

**座長** 何？

**女優2** （けなげに）じゃ、せめて、台本をください。勉強しておきたいんです。

**座長** いい心がけだね。（男優2に）少しは見習いなさい。

**女優2** 座長は、お忙しいですから、万が一の時には、私が替わりに入ります。

**座長** それは助かるね。

**女優2** いつ、倒れられても、大丈夫ですから。

**座長** それは頼もしいね。

**女優2** 今すぐ、倒れてくださっても、大丈夫ですから。

**座長** それは——（気がついて）おい。

このあたりまでに、演出助手、台本の束を持って、なんとなく登場している。

**座長** あ、来た来た、台本。配って、配って。

**演出助手（以下「助手」）** はい！（皆に台本を配る）

**女優1** （助手をふしぎそうに見やり）誰。

**男優1** （座長に）新人さん？

座長 いやー、どうしてもうちの劇団に入れてほしいって言うから、まあ、しかたなく。

(助手に) ね、ざっちゃん。

助手 はい。(嬉しげ)

男優2 「ざっちゃん」?

座長 ざっちゃんはね、演出助手っていうんだ、ホントはね。だけどトロいから、雑用係のざっちゃんっていうんだよ。——誰か止めるか笑うかしてくれ。

女優1 どっちも無理。

女優2 (この間、渡された台本をめくっているが) 座長。

座長 何。

女優2 この、表紙に書いてあるのが、今回のタイトルですか?

座長 そうだよ。

女優2 ものすごく、いい題名ですね!

座長 ありがとう。このままだといつまでたっても始まりそうにないからって、無理やり話をそこへ持ってって来て。

女優2 お客さま、待ってますから。じゃ、タイトル読んでいいですか?

座長 頼みます。

女優2 (読む)『シラノ あるいは太陽と月に遊んだ男 レジェンド・バージョン』。

皆、拍手。

女優1 でも、この「レジェンド・バージョン」って何ですか?

座長 そこなんだよ。わたしにもわからないんだ。

女優1 えー? ウソ。

座長 ホント。(と言いつつ逃げる)

女優1 ウソ。(と言いつつ追いかける)

座長 ホント。(と言いつつ退場)

音楽始まる。皆、座長を追って退場。助手だけが残り、歌う。

#02 「飛べシラノ」…シ  
ヤブリエ「蝉」

助手 これから始まる 新しいお話

心のどこかに しまいこんでた夢

夜空ノ向コウに 待ってくれてる世界

いま思い出せば まだまにあうかも

シラノ 行けシラノ

シラノ 飛べシラノ

シラノ 月を越えて 太陽にとどくまで

転換。